

「する」スポーツの推進に対する意見	記載箇所
「する」機会の創出、周知	「する」課題整理①
幼児～児童がスポーツに取り組む前段階としての身体づくり。高齢者の健康保持・社会参加を生む体制づくり。	「する」課題整理①
各スポーツ団体と連携して、子ども向けに「大スポーツ体験会」など様々なスポーツを一度に体験できる機会を作ることで、自分にあったスポーツを見つけることができる。	「する」課題整理①
小学校の施設開放でも、どこも新規に入る余裕がない。地域でスポーツが気軽にできる場所をどう確保するか。	「する」課題整理①
公園やサイクルロード・水辺を含めたスポーツをする場所を把握し、利用者情報を取得することが必要。多様なスポーツの実施・日常的なスポーツの実施を広めるための情報発信にも貢献できる。	「する」課題整理①
受け入れに余裕がある場合でも、日差しの強い日中や仕事の時間以外にスポーツを実施するハードルを下げるための施設の整備は継続して必要。例えば、ハートフルや市民運動広場などの野外スポーツ施設周辺の歩道に向けて足元を照らす設置や長時間化などは進めるべき。	「する」課題整理①
共生社会の実現を目的としたスポーツにおける人的交流の機会増加 (例：年齢、性別、国境を越えたスポーツでの交流事業)	「する」課題整理①
ニュースポーツの推進と高齢者スポーツ人口の増加を図る。	「する」課題整理①
高齢者、障害のある方と子ども達と一緒にできるスポーツを地域に落とす	「する」課題整理①
週1回以上の運動をしていない人や運動不足を実感している人（子育て世代・女性の割合は特に高い）を減少・解消させること。	「する」課題整理②
アーバンスポーツを行っているクラブの把握をしないと、練習場所等の確保が難しい。	「する」課題整理②

<p>アーバンスポーツやeスポーツについて理解を得るための周知や施設・体制の整備。ただ、既存種目やパラスポーツの方を優先すべきとの声もある。</p>	<p>「する」課題整理②</p>
<p>日常的なスポーツや多様なスポーツの実施を進めるために、競技スポーツ以外のスポーツに触れる機会の創出を推進すべき。</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>スポーツ実施者を増やすために、体育施設の最大利用者に対する実際の利用者の割合、スポーツ少年団・総合型スポーツクラブなどの受け入れ可能人数の残数などの情報。 →受け入れ余裕がある場合、施設の利用者増やスポーツ団体の新規加入者増を成果目標として市が直接企画を実施したり、プロスポーツを活用して企画を実施する。 →受け入れに余裕がない場合は、施設の改善（多用途化など）やスポーツ団体の増加を目指した取り組みを実施する。</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>総合型スポーツクラブの認知度や参加者を増やす、スポーツ少年団全体の加入率を増やす、野外運動などの多様なスポーツの実施者を増やす、街なかを歩くなどの日常的なスポーツ実施者を増やすなど、佐賀市が課題と考えていることを「成果目標」に含めたプロスポーツの活用や指定管理団体選定のための企画競争入札条件の変更などを検討すべき。</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>健康に配慮した施設・設備の点検・整備 (例：既存のスポーツ施設の点検・整備（屋根・照明・日陰）)</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>ウェルビーイングの向上を目的とした新しい多目的施設の設置 (例：多目的で住民が利用しやすいアリーナの建設)</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>外国人留学生や外国人労働者がスポーツを行う環境作り（場所、サークル、チーム、情報発信、窓口）</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>企業内スポーツ活動促進</p>	<p>「する」具体的取組</p>
<p>推進することでの佐賀市の狙いや未来像を示すと分かりやすく、浸透しやすい。</p>	<p>「する」具体的施策</p>
<p>育児休暇取得と同じように、市役所職員がスポーツについても、行動として見せていく。</p>	<p>「する」具体的施策</p>

「みる」スポーツの推進に対する意見	記載箇所
「みる」機会の創出、周知	「みる」課題整理①
佐賀市内向けスポーツ紹介YouTubeチャンネルの開設 (例：YouTube配信によるスポーツ紹介番組、注目される選手の紹介など)	「みる」課題整理①
パラスポーツの推進を行ううえでも、市民の関心が必要なので、現在、県が行っているパラスポーツ学校訪問を佐賀市内の小中学校で継続していく。パラスポーツの関心や障がい者への理解を深めていくことにつながる。	「みる」課題整理①
「みる」機会を市民自ら作るような取り組み（例：YouTubeでの配信方法のレクチャーなど）	「みる」課題整理①
各スポーツ視聴者のコミュニティ化	「みる」課題整理①
スポーツを気軽に親しめるSNSの活用	「みる」課題整理①
佐賀市のスーパーアプリに「スポーツ」がないことが、佐賀市がスポーツを推進、積極的でないように感じる。佐賀バルナーズ応援しれないので、営利団体への支援とみられるので、「スポーツ」という大きい括りの中にあるべき。	「みる」課題整理①
トップアスリートを招待した大会、イベントの実施	「みる」課題整理②
観客が鑑賞しやすい環境の整備 (例：日陰で座って観戦できる環境の整備、車いすで見学・観戦しやすく移動しやすい環境の整備)	「みる」課題整理③
いかにして、スポーツ観戦から、心理面や経済面での価値を生み出すか。	「みる」課題整理④
スポーツ大会と祭りを掛け合わせて実施する	「みる」課題整理④
2024全障スポの効果で、障がい者スポーツへの注目が上がっているので、レガシーを活用し、これからの世代にも引き続き推進活動を行う必要がある。パラスポーツ協会、指導者協議会との連携が必要。	「みる」具体的取組
スポーツコミッションなどの官民一体の取り組みを行う	「みる」具体的取組
地域でやっているスポーツ大会に、競技経験がない人が見に行きにくい雰囲気がある。	「みる」具体的施策

「ささえる」スポーツの推進に対する意見	記載箇所
「ささえる」機会の創出、周知	「ささえる」課題整理①
各種目の競技力向上。	「ささえる」課題整理①
指導者の育成、講習などで集めるのではなく、訪問して各チーム、団体の状況把握をするべき。	「ささえる」課題整理①
スポーツボランティアの不足	「ささえる」課題整理②
ボランティアの数と参加継続を増やす仕組み。（例：ボランティアに参加するとポイント制度などで、何か特典をつける）	「ささえる」課題整理②
ボランティアが実際、どういうことをしたり、やったことでどういうメリットがあるのかが示されていない。	「ささえる」課題整理②
指導者の質の向上	「ささえる」課題整理③
総合型スポーツクラブの認知度が低い現状をどのように打破するか	「ささえる」課題整理④
総合型スポーツクラブは、中学校部活動地域移行の受け皿のようになっているが、運営がうまくいっているクラブの方が少ない。中学校部活動のクラブ種目と総合型のクラブ種目があまりにも違いすぎる。総合型スポーツクラブの運営支援等をどうするか。	「ささえる」課題整理④
部活の地域移行と地域スポーツクラブそれぞれの関係性についての理解を得るための周知や体制の整備。	「ささえる」課題整理④
スポーツボランティア登録者数を増やす取り組みは非常に難しい目標であるため、このような難しい目標達成を目指して、プロスポーツを活用すべき。	「ささえる」具体的施策
指導者の研修・育成 (例：不適切な指導に関する研修、最新の指導方法に関する研修)	「ささえる」具体的施策
スポーツ指導者の支援を推進することにも、プロスポーツを活用できる。 プロスポーツに関わる指導者の知識や技能を佐賀市のスポーツ指導者に学んでもらう機会を作ることは、佐賀大学や西九州大学の学生にも知ってほしい。公開講座の開催もしてほしい。	「ささえる」具体的取組
スポーツボランティア養成の充実 (例：託児ボランティア養成)	「ささえる」具体的取組
「ささえる」の多様化。（例：競技団体への支援金など）	「ささえる」具体的取組
「ささえる」スポーツが何があるのか具体的に定義しないと施策が打てない。	「ささえる」具体的施策